

JVCケンウッド 決算説明資料

2019年3月期 第1四半期

2018年8月1日

株式会社JVCケンウッド

当社は2018年3月期の有価証券報告書から、従来の日本会計基準に替えて、国際財務報告基準（IFRS）を任意適用いたしました。

本資料の2019年3月期および2018年3月期の数値は、すべてIFRSとなっております。

事業内容

メディアサービス分野 (MS)

■メディア事業

- ・ソリューション／ライフスタイル (旧プロダクツ)
ビデオカメラ、ヘッドホン、プロジェクター、
ホームオーディオ など

■エンタテインメント事業

- コンテンツ／受託ビジネス

パブリックサービス分野 (PS)

■無線システム事業

- 業務用無線、アマチュア無線、
無線システム機器 など

■業務用システム事業

- 監視カメラ、業務用放送機器 など

■ヘルスケア事業

- 医用画像表示用ディスプレイ、エクソソーム解析システム、
ゲイズファインダー など

その他 (1.7%)

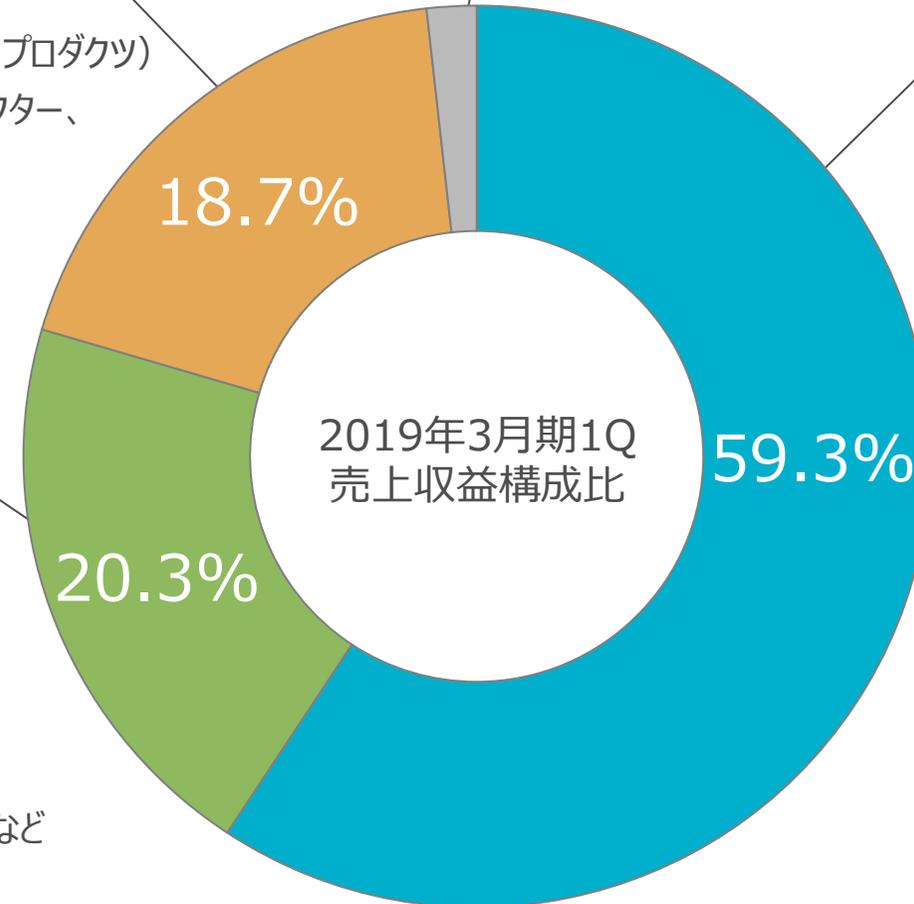
オートモーティブ分野 (AM)

■アフターマーケット事業

- ・カーナビゲーション
- ・カーオーディオ
- ・ディスプレイオーディオ
- ・ドライブレコーダー など

■OEM事業

- ・カーナビゲーション
- ・ディスプレイオーディオ
- ・ドライブレコーダー
- ・車載用カメラ
- ・車載用CD/DVDメカ
- ・車載用光ピックアップ
- ・車載用スピーカー
- ・車載用アンテナ
- ・車載用アンプ
- ・デジタルコックピットシステム など



- 1. 2019年3月期 第1四半期決算概況**
- 2. 2019年3月期 業績予想**
- 3. トピックス**

1. 2019年3月期 第1四半期決算概況

2. 2019年3月期 業績予想

3. トピックス

2019年3月期1Q決算 ハイライト

- 売上収益は、AM分野及びPS分野の増収により増収
- コア営業利益は、AM、PS、MSの3分野とも増益となり黒字転換。営業利益も増益
- 税引前四半期利益は、営業利益の増加などにより黒字転換
- 四半期純利益は、税引前四半期利益の増加などにより黒字転換

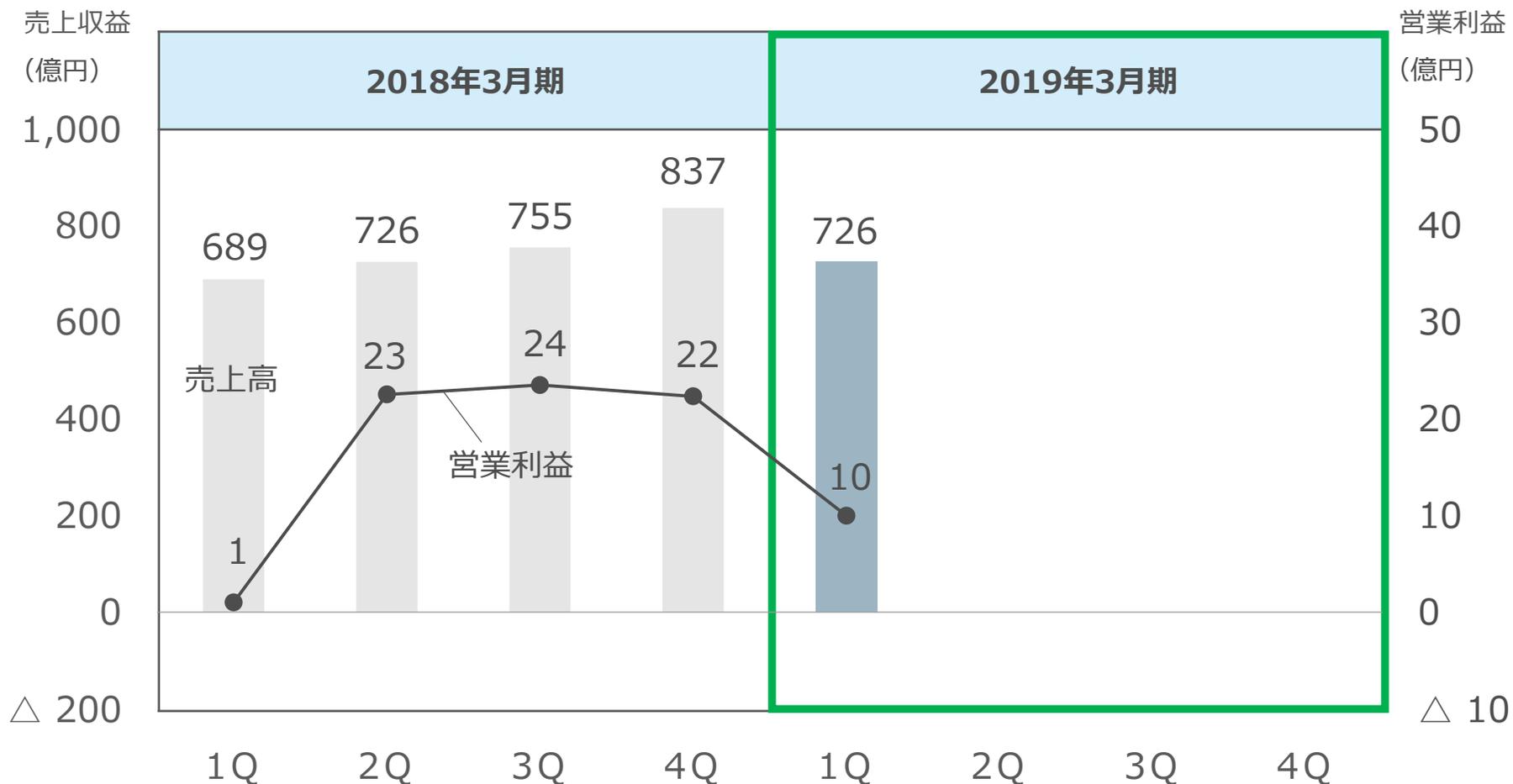
(億円)

	'18/3期1Q		'19/3期 1Q		前期差
		構成比 (%)		構成比 (%)	
売上収益	689	100.0	726	100.0	+ 37
売上原価	511	74.1	533	73.5	+ 22
売上総利益	178	34.9	192	36.1	+ 14
コア営業利益 [※]	△ 0	△ 0.1	9	1.2	+ 9
営業利益	1	0.1	10	1.4	+ 9
税引前四半期利益	△ 1	△ 0.1	9	1.2	+ 10
親会社の所有者に帰属する四半期利益	△ 7	△ 1.1	3	0.4	+ 10

※ 営業利益から、その他の収益、その他の費用、為替差損益など、主に一時的に発生する要因を控除したもの

		'18/3期					'19/3期				
		1Q	2Q	3Q	4Q	通期	1Q	2Q	3Q	4Q	通期
損益為替レート	1米ドル	111円	111円	113円	108円	111円	109円	-	-	-	-
	1ユーロ	122円	130円	133円	133円	130円	130円	-	-	-	-

2019年3月期1Q決算（四半期別）実績推移



損益為替レート	1米ドル 1ユーロ	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q	4Q
		111円	111円	113円	108円	109円	-	-	-
		122円	130円	133円	133円	130円	-	-	-

(億円)

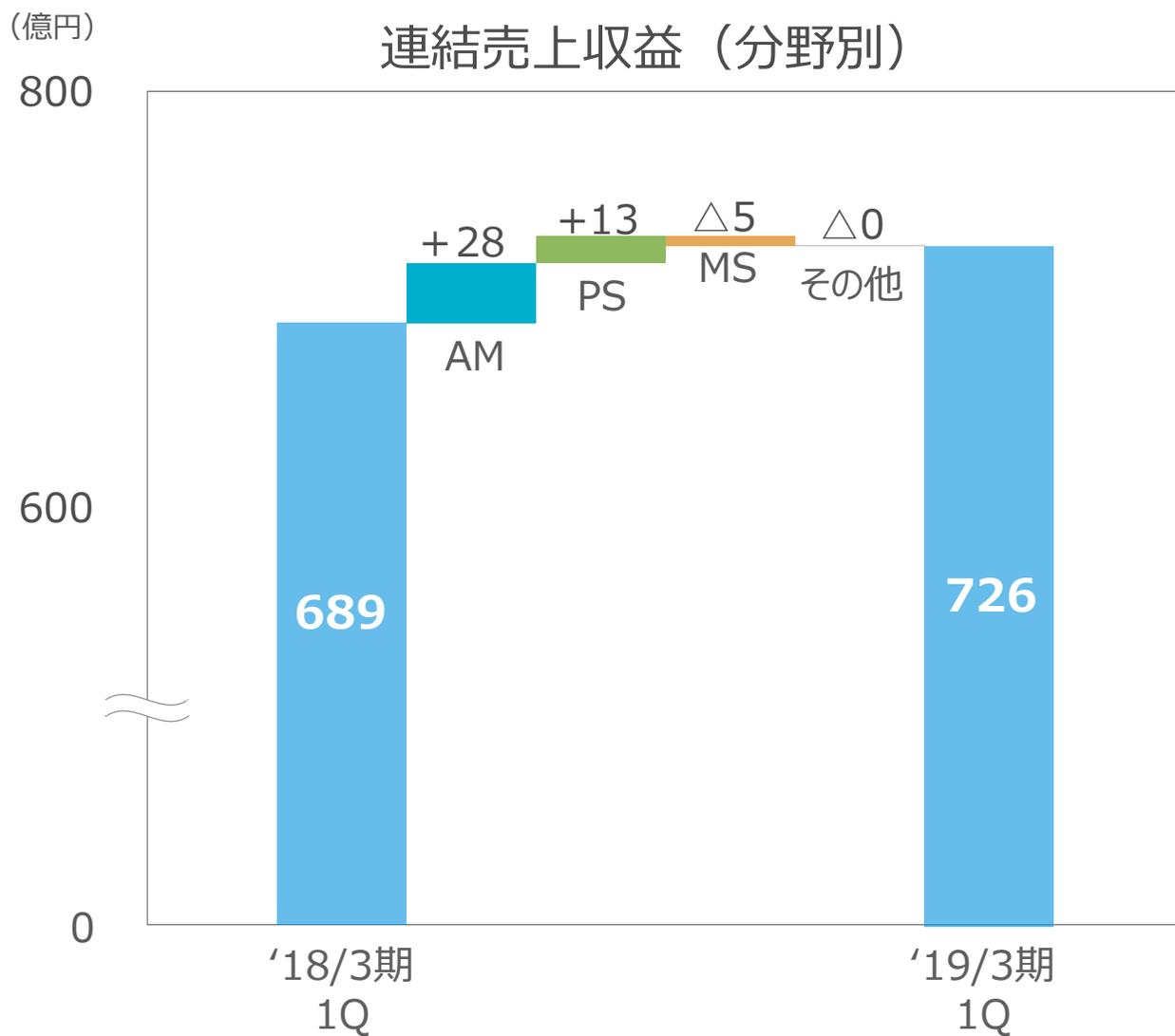
	上期	下期	上期	下期
売上収益	1,415	1,592		
営業利益	24	46		

2019年3月期1Q決算 分野別の状況

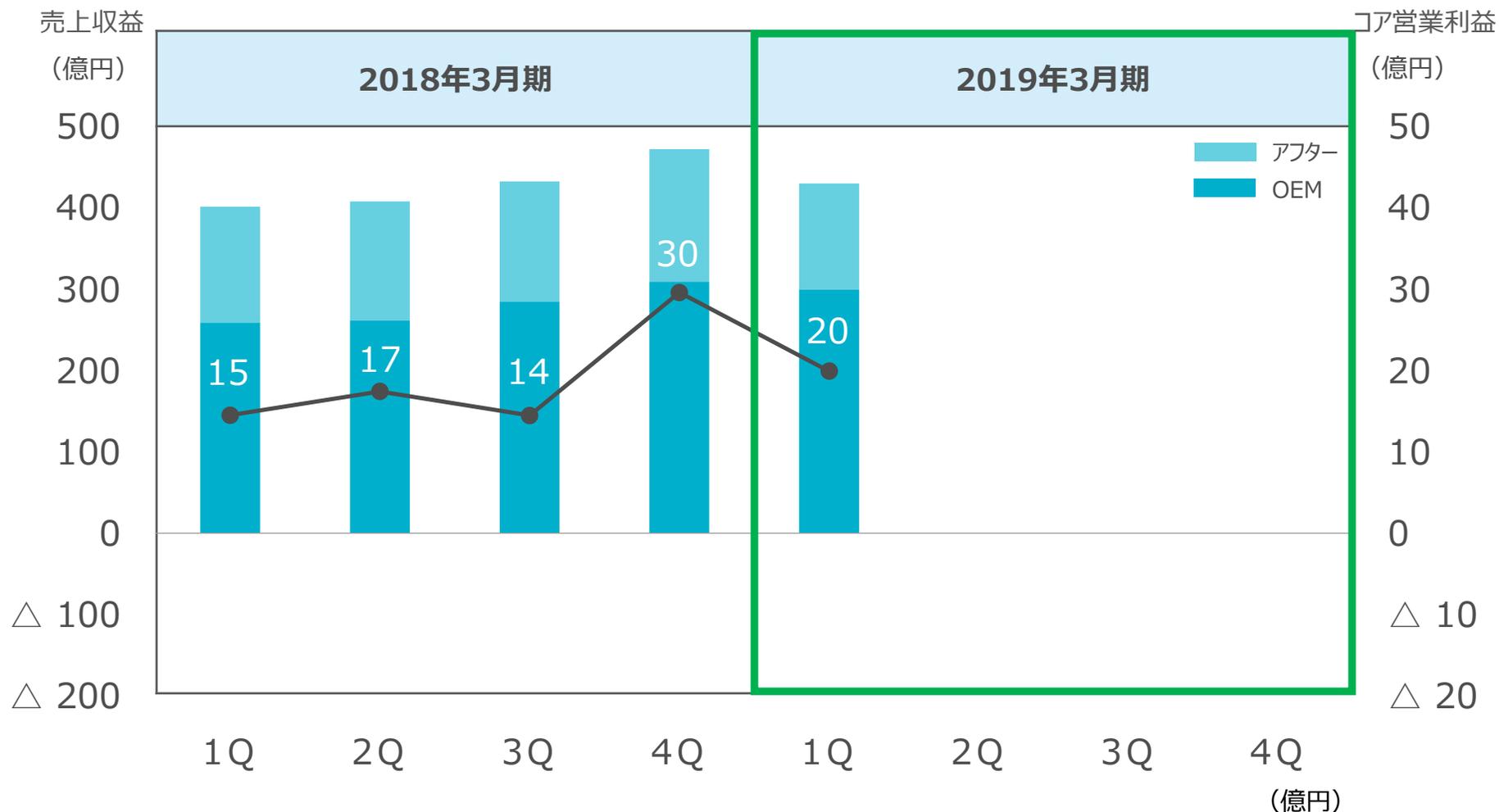
(億円)

		'18/3期 1Q	'19/3期 1Q	増減	前期増減率	要因
オートモーティブ	売上収益	402	430	+28	+7.1%	* OEMの増収により、分野全体でも増収 * OEMの増益により、分野全体でも増益
	コア営業利益	15	20	+5	+37.4%	
パブリックサービス	売上収益	134	147	+13	+9.7%	* 無線システムの販売増、Rein社の子会社化などにより、分野全体で増収 * 増収効果により、損失縮小
	コア営業利益	△ 15	△ 12	+3	-	
メディアサービス	売上収益	140	136	△ 5	△3.3%	* エンタテインメントの販売減により、分野全体でも減収 * メディアの損失が縮小し、分野全体で増益
	コア営業利益	0	2	+2	+537.9%	
その他	売上収益	13	13	△ 0	△0.9%	
	コア営業利益	△ 0	△ 1	△ 1	-	
合計	売上収益	689	726	+37	+5.3%	
	コア営業利益	△ 0	9	+9	-	

2019年3月期1Q決算 連結売上収益（分野別）

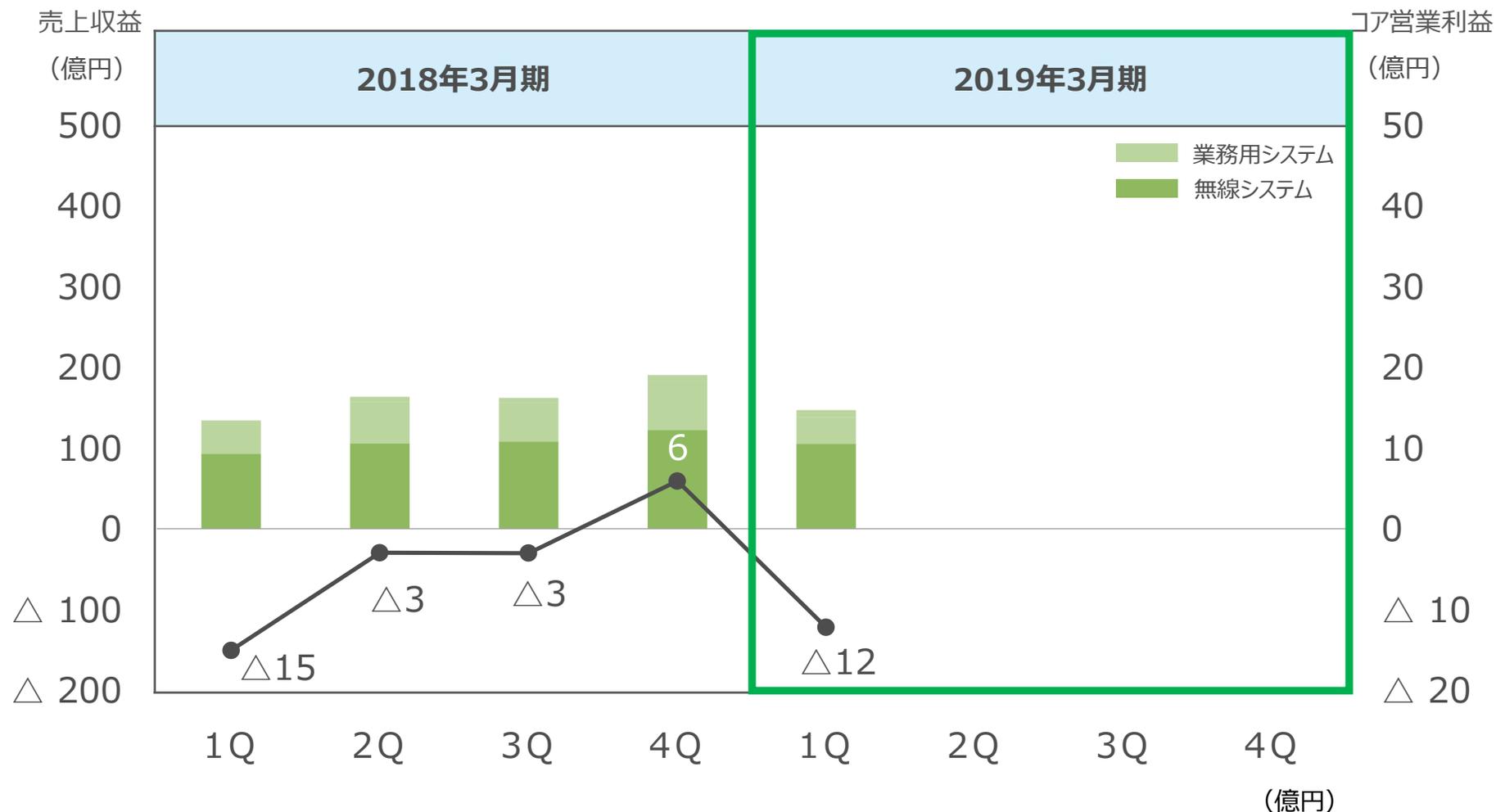


2019年3月期1Q決算 AM分野 四半期別実績推移



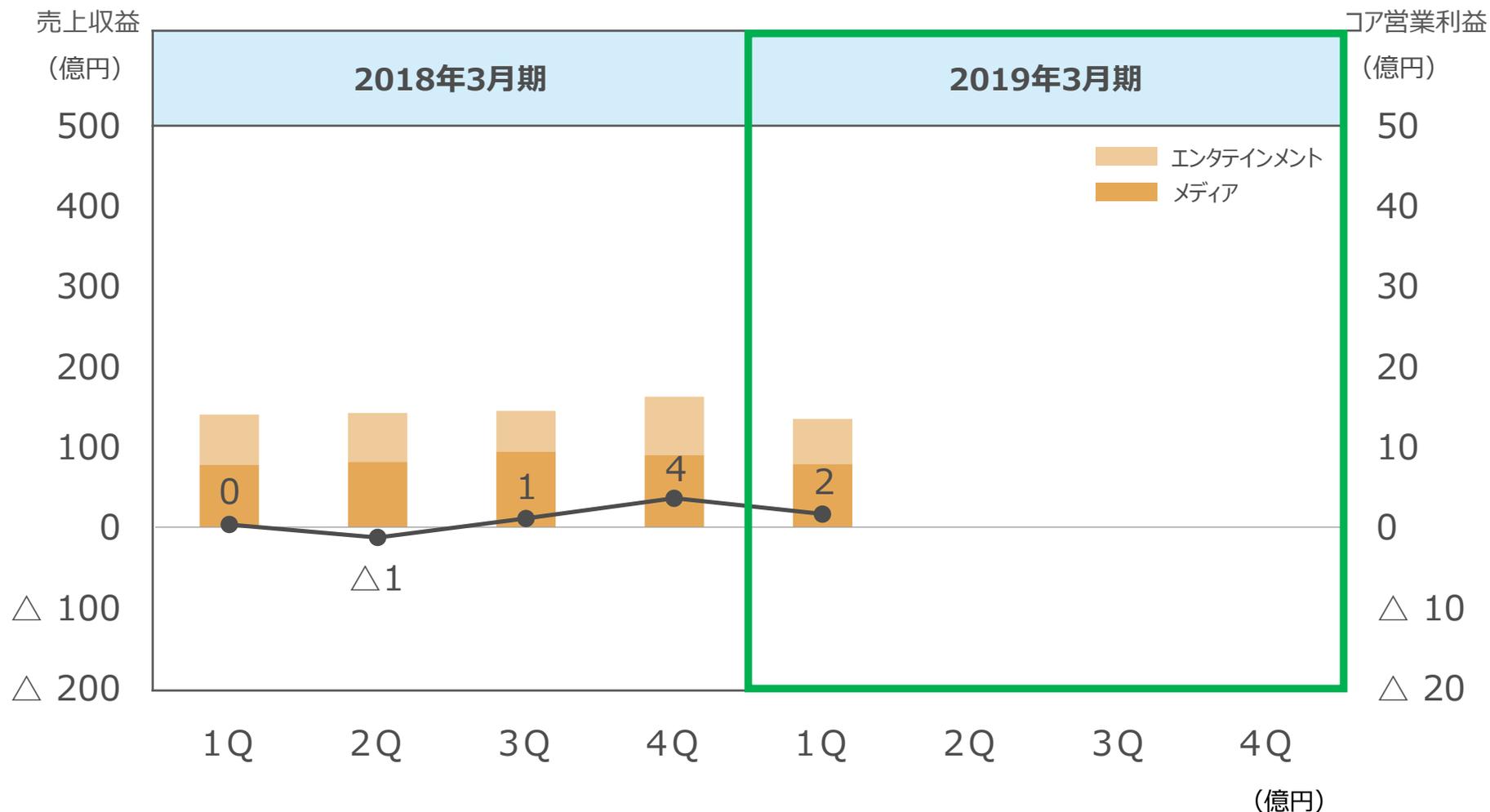
	上期	下期	上期	下期
売上収益	810	905		
コア営業利益	32	44		

2019年3月期1Q決算 PS分野 四半期別実績推移



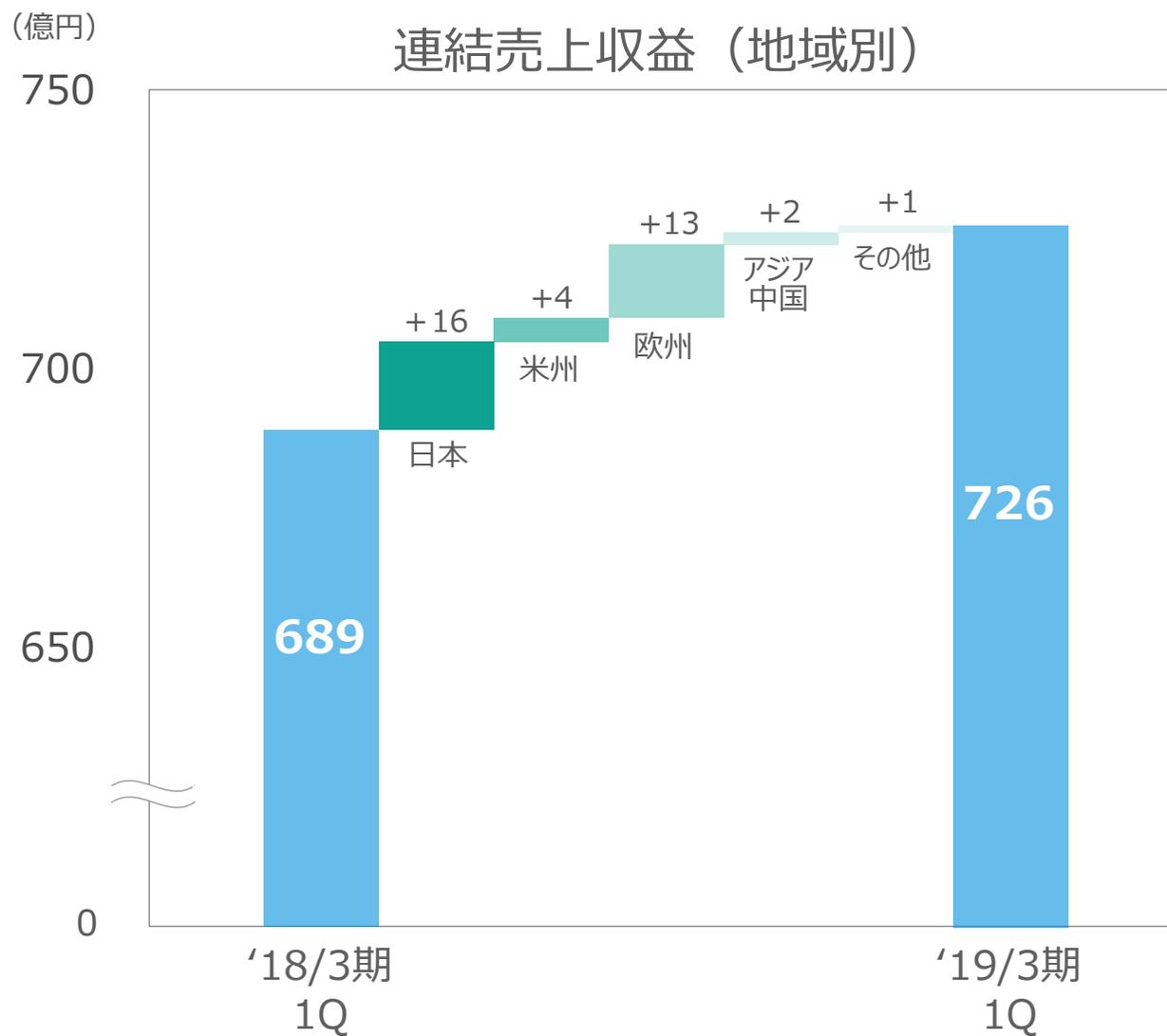
	上期	下期	上期	下期
売上収益	298	353		
コア営業利益	△ 18	3		

2019年3月期1Q決算 MS分野 四半期別実績推移

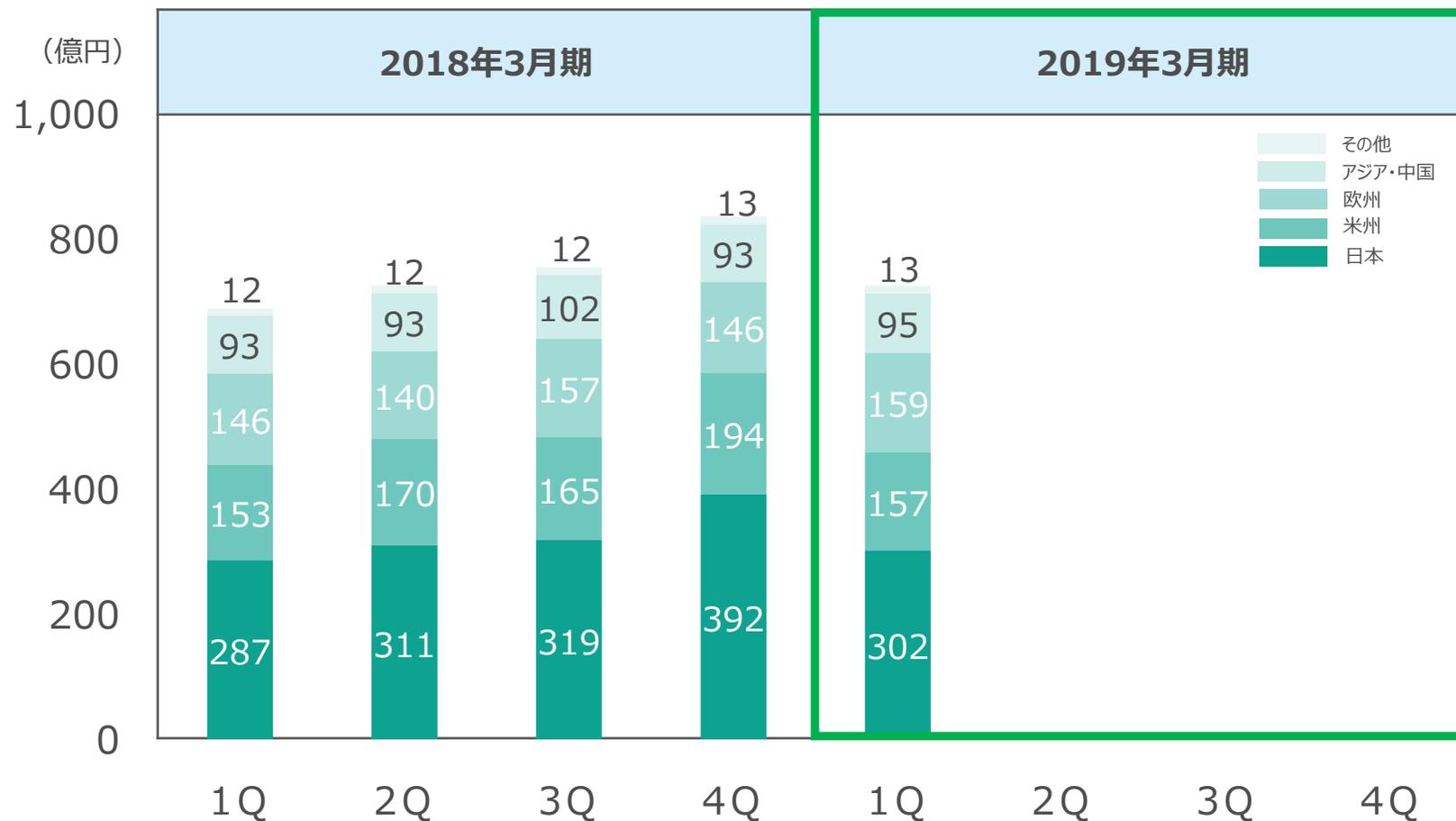


	上期	下期	上期	下期
売上収益	282	307		
コア営業利益	△ 1	5		

2019年3月期1Q決算 連結売上収益（地域別）

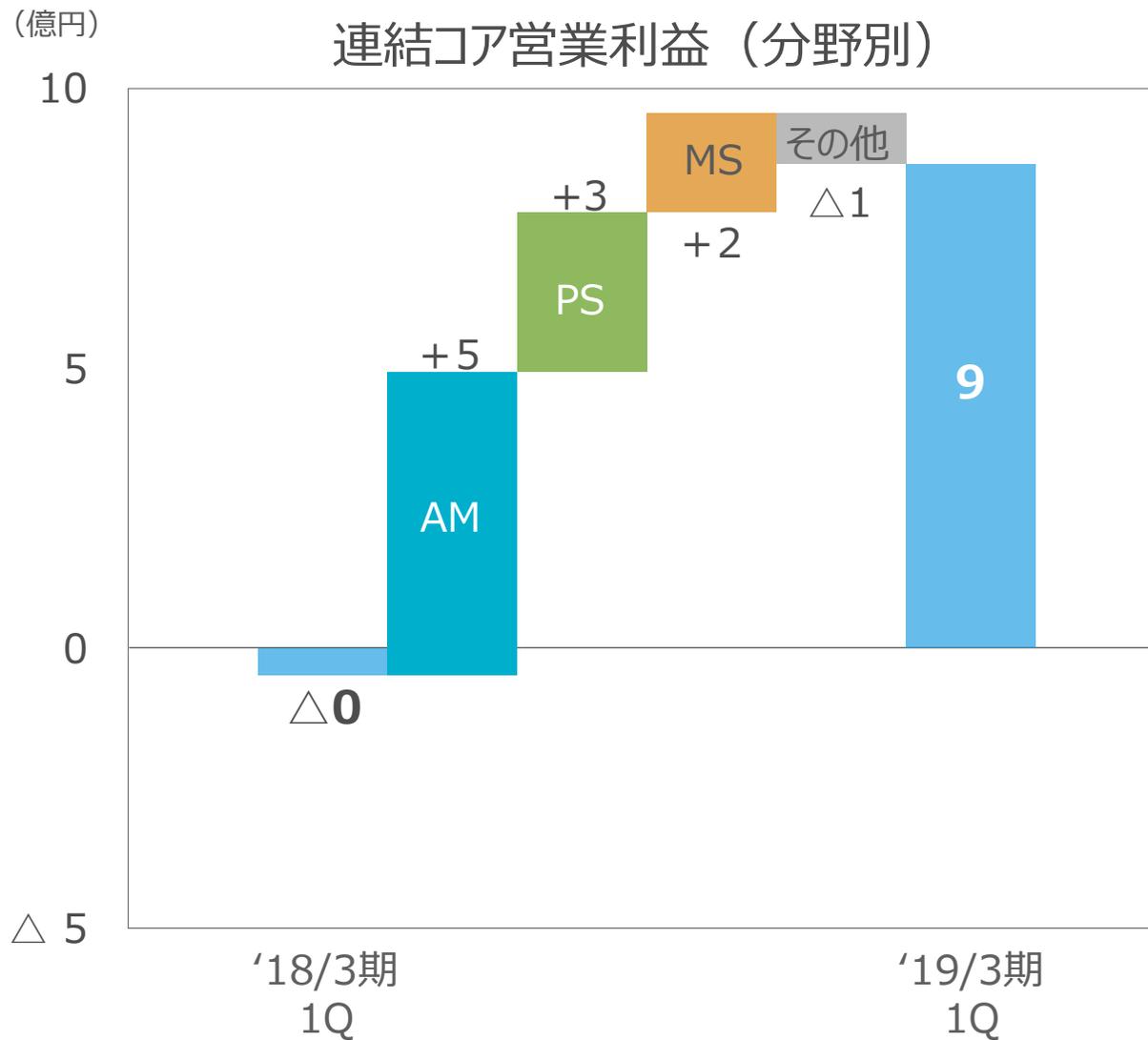


2019年3月期1Q決算 地域別連結売上収益推移



	2018年3月期		2019年3月期	
	上期	下期	上期	下期
日本	598	711		
米州	323	359		
欧州	285	303		
アジア・中国	186	195		
その他	24	25		

2019年3月期1Q決算 連結コア営業利益（分野別）



2019年3月期1Q決算 四半期連結損益（要約）

- 営業利益の増加などにより、税引前四半期利益は黒字転換
- 税引前四半期利益の増加などにより、親会社の所有者に帰属する四半期利益は黒字転換

(億円)

	'18/3期1Q	'19/3期1Q	増減
コア営業利益 [※]	△ 0.5	8.6	+ 9.1
その他の収益・費用、為替差損益等	1.5	1.4	△ 0.2
営業利益	1.0	10.0	+ 9.0
金融収支他	△ 1.8	△ 1.1	+ 0.6
税引前四半期利益	△ 0.7	8.9	+ 9.6
法人所得税費用	3.9	4.8	+ 0.8
非支配持分	2.7	1.4	△ 1.4
親会社の所有者に帰属する四半期利益	△ 7.4	2.7	+ 10.1

※ 営業利益から、その他の収益、その他の費用、為替差損益など、主に一時的に発生する要因を控除したもの

2019年3月期1Q決算 財政状態サマリー

(億円)

	'18/3期末	'19/3期 1Q	増減
資産合計	2,399	2,357	△ 43
負債合計	1,861	1,794	△ 67
資本合計	538	563	+ 25
有利子負債	678	693	+ 15
ネットデット	307	345	+ 38
ネットD/Eレシオ (倍)	0.61	0.65	+ 0.05
親会社の所有者に帰属する持分	506	529	+ 22
親会社所有者帰属持分比率 (%)	21.1	22.4	+ 1.3

2019年3月期1Q決算 キャッシュ・フロー サマリー

- 税引前四半期利益は増益となったものの、増収により運転資金が増加したことなどから、営業キャッシュ・フローは収入が減少
- 有形固定資産の取得による支出増加に加えて、Rein Medical社を子会社化したことから、投資キャッシュ・フローは支出が増加

(億円)

	'18/3期1Q	'19/3期 1Q	増減
営業活動によるキャッシュ・フロー	63	35	△ 28
投資活動によるキャッシュ・フロー	△ 34	△ 65	△ 31
フリー・キャッシュ・フロー	29	△ 30	△ 59
財務活動によるキャッシュ・フロー	△ 3	5	+ 8
合計	26	△ 25	△ 51

※ フリー・キャッシュ・フロー = 営業活動によるキャッシュ・フロー + 投資活動によるキャッシュ・フロー

1. 2019年3月期 第1四半期決算概況

2. 2019年3月期 業績予想

3. トピックス

2019年3月期 通期業績予想

- 1QはAM分野、PS分野、MS分野がそれぞれ想定を上回ったことから、全社で期初の想定を上回って順調に推移
- 2Q以降は、AM分野でOEMの堅調な推移、PS分野で米国無線子会社の販売増、Radio Activity社・Rein Medical社の連結効果発現を見込む。またMS分野でメディアの改善、エンタテインメントの大型作品による販売増を見込むが、現時点では期初に公表した通期業績予想の変更は行わない

(億円)

	'18/3期 実績	'19/3期 予想	増減
売上収益	3,007	3,100	+93
営業利益	69	71	+2
税引前利益	59	60	+1
親会社の所有者に帰属する当期利益	24	27	+3

1. 2019年3月期 第1四半期決算概況

2. 2019年3月期 業績予想

3. トピックス

オートモーティブ分野

- アフター
 - ・新たな商材としてFMトランスミッターやシガーソケットチャージャーなど、デザイン・機能性に優れたカーアクセサリーを展開
 - ・欧米を中心とする海外市場に対してディスプレイオーディオ新製品を2Qに発売予定
- OEM（用品）
 - ・国内自動車メーカーから順調に受注を拡大
 - ・海外でもアジアで大型案件を獲得し下期以降の貢献に期待
- OEM（純正） 専用設計ディスプレイオーディオの拡販などにより好調に推移



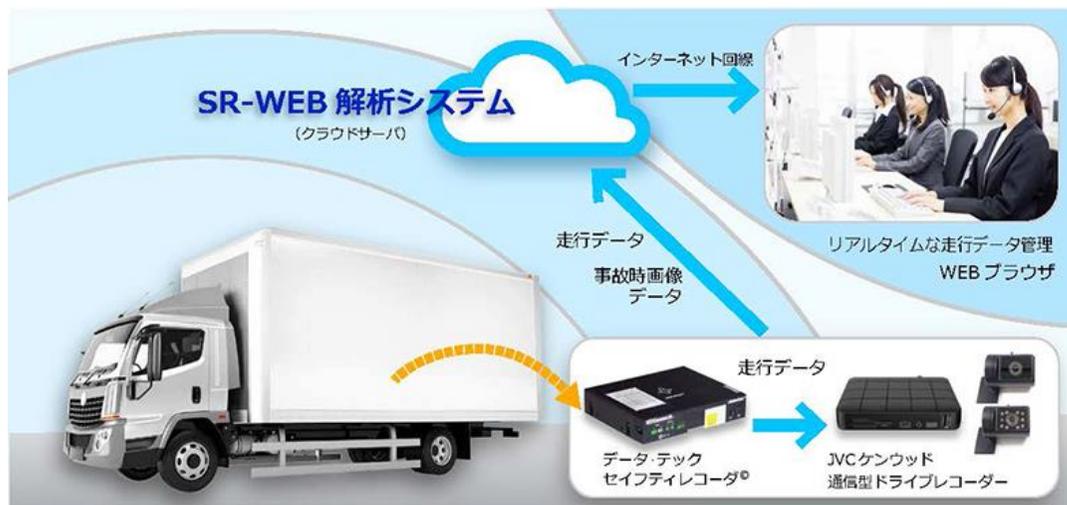
デザイン・機能性に優れたカーアクセサリー



用品は引き続き順調に受注拡大

ドライブレコーダーのさらなる拡販に向けて

- AM アフター 業界最高レベルの「高画質」「長時間録画」が評価され、2016年度に続き2017年度も国内シェア第1位※を獲得。1Qも堅調に推移
- AM OEM 用品は順調に受注を拡大、今後は海外および純正への本格展開
- MS メディア JVCブランドのドライブレコーダーを家電量販店や通販に展開
- ソリューション開発
 - ・あいおいニッセイ同和損保向け通信型ドライブレコーダーの出荷を開始
 - ・商用テレマティクス分野への参入に向けて通信型ドライブレコーダーを新開発、トラック運送業界を中心に販路拡大を図る



データ・テック社製デジタルタコグラフとの連携イメージ



販売数量で2年連続No.1となったドライブレコーダー

※2016・2017年度(4-3月)、「Onboard Cams」メーカー別販売数量シェア(国内のカー用品量販店、家電量販店、インターネット通販などの販売実績を基に推計した市場規模データ/Gfk Japan調べ)による。

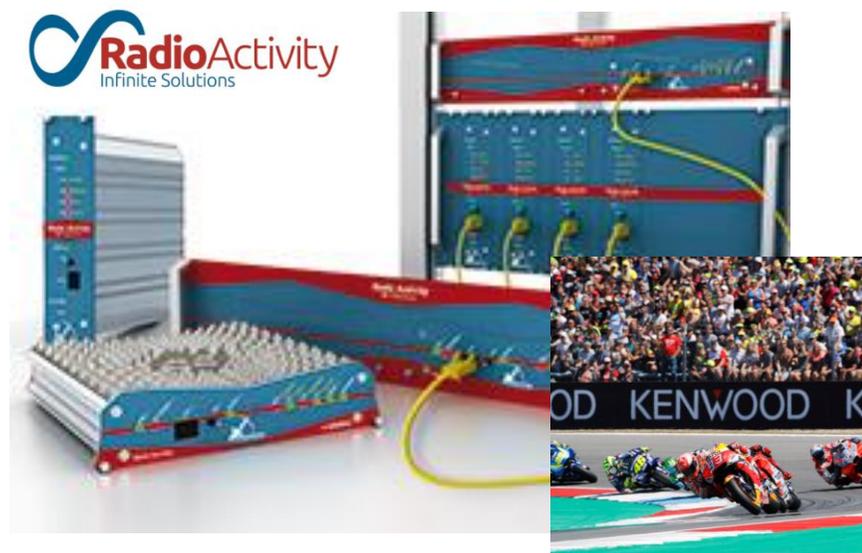
パブリックサービス分野

■ 無線システム

- マルチプロトコル対応デジタル無線機「NX-3000」が高評価、米国を中心として好調に推移
- EMEA※の空港や大手小売チェーンなどから新規大型受注を獲得
※ Europe, Middle East and Africa
- 米国無線子会社も好調な端末販売が牽引し回復傾向
- 子会社化したRadio Activity社を核にDMR受注促進
MotoGP™（世界最高峰の二輪車レース）にて採用



2つのデジタル無線プロトコルに対応した
デジタル無線機「NX-3000」



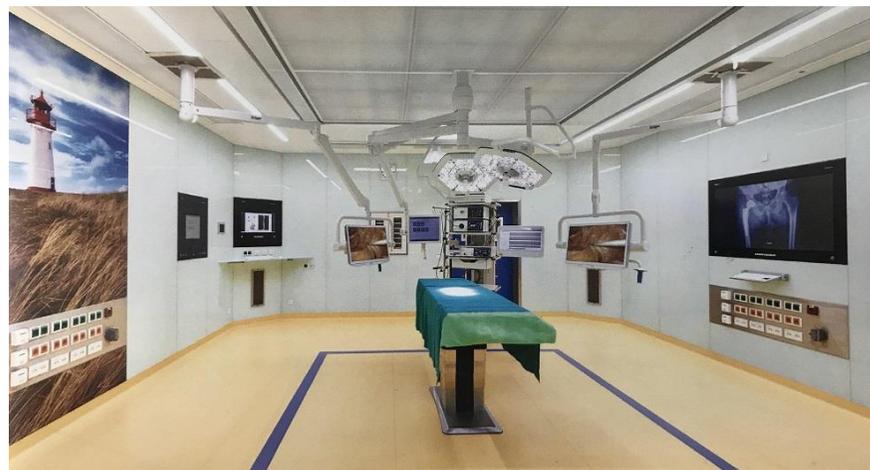
2018年1月に子会社化した
Radio Activity社の「DMR」対応無線システムソリューション

パブリックサービス分野

- 業務用システム
 - ・石巻市防災センターに災害状況や気象情報などさまざまな情報を一元管理するオペレーションシステムを納入
 - ・某鉄道会社より沿線カメラシステムの大型受注
- ヘルスケア
 - ・5月に子会社化した独Rein Medical社とのシナジー創出に向けて、モダンホスピタルショウでOR※映像ソリューションの受注活動を本格化
 - ・エクソソーム計測システム「ExoCounter」が血清中の乳がん特異的エクソソーム数の計測に成功、がん等早期診断ツールとして期待



石巻市防災センターへ納入したオペレーションシステム



Rein Medical社のOR※映像ソリューション

※ Operating Room（手術室）の略

メディアサービス分野

- メディア（ライフスタイル）
 - ・完全ワイヤレスタイプなどBluetooth®対応ヘッドホンのラインアップ拡充、カムコーダー 新商品の効果などにより対前年で大きく改善
- メディア（ソリューション）
 - ・ソリューションは新コンセプト“CONNECTED CAM”の本格展開で、2Q以降の貢献に期待



8月から発売を開始する完全ワイヤレスイヤホン



新コンセプト“CONNECTED CAM”の
業務用ハイエンドカメラレコーダー

メディアサービス分野

- エンタテインメント
主な2Q期待作品

サザンオールスターズ プレミアムアルバム 海のOh, Yeah!!

8月1日（水）発売！



ブランド戦略 スポンサーシップ活動



■ MotoGP™（世界最高峰の二輪車レース）へRadio Activity社のデジタル無線規格「DMR」対応の無線システムを提供。その信頼性を背景に、KENWOODブランドのスポンサーシップ契約を締結



■ 従来のWTCCが2018年よりWTCR（FIA世界ツーリングカーカップ）となり、より緊迫したレースへ変貌。プロモーターであるユーロスポーツをはじめ関係企業と共に当社事業全般の販促と、オートモーティブ関連市場へのブランド認知を目的に協賛を行う

（2018年10月28日：鈴鹿GPは冠スポンサー）

ブランド戦略 ブランド活用



■ Victorブランド～オルゴール

- 「ビクター設立90周年」の記念商品として、高級オルゴール「RJ-3000」を復刻



■ KENWOODブランド～ユニクロ Tシャツ

- ユニクロが展開する「The BrandsグラフィックT（長年多くの人から愛されている商品を集めたブランドコレクション）」としてKENWOODのミニコンポ「K's」シリーズのスピーカーをモチーフにしたTシャツを発売

JVCKENWOOD

このプレゼンテーション資料に記載されている記述のうち、将来を推定する表現については、将来見通しに関する記述に該当します。これら将来見通しに関する記述は、既知または未知のリスクおよび不確実性並びにその他の要因が内在しており、実際の業績とは大幅に異なる結果をもたらす恐れがあります。これらの記述は本プレゼンテーション資料発行時点のものであり、経済情勢や市場環境によって当社の業績に影響がある場合、将来予想に関する記述を更新して公表する義務を負うものではありません。実際の業績に対し影響を与えうるリスクや不確実な要素としては、(1) 主要市場（日本、米州、欧州およびアジアなど）の経済状況および製品需給の急激な変動、(2) 国内外の主要市場における貿易規制等各種規制、(3) ドル、ユーロ等の対円為替相場の大幅な変動、(4) 資本市場における相場の大幅な変動、(5) 急激な技術変化等による社会インフラの変動、などがあります。ただし、業績に影響を与えうる要素としてはこれらに限るものではありません。